

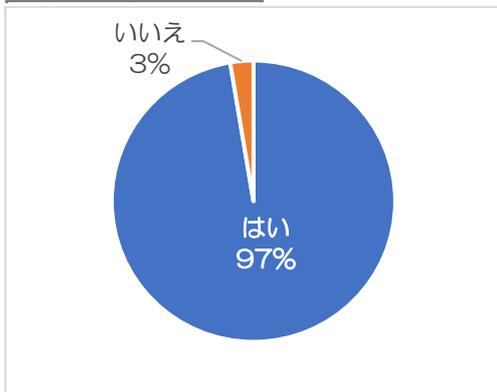
遠隔教育に関するノウハウ共有セミナー アンケート集計

令和3年3月28日集計

回答者 190 名

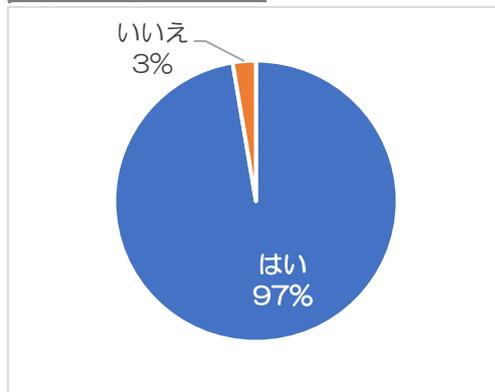
1. このセミナーは、興味深い内容でしたか。

回答	回答数
はい	185
いいえ	5
合計	190



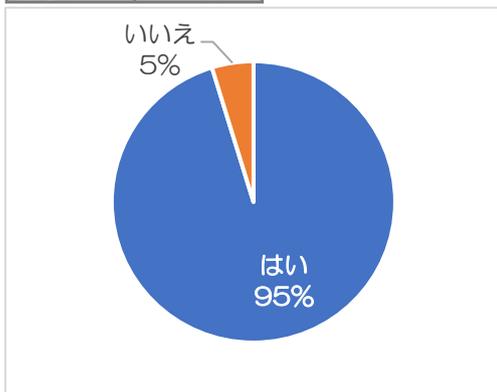
2. このセミナーは、これから役に立ちそうですか。

回答	回答数
はい	185
いいえ	5
合計	190



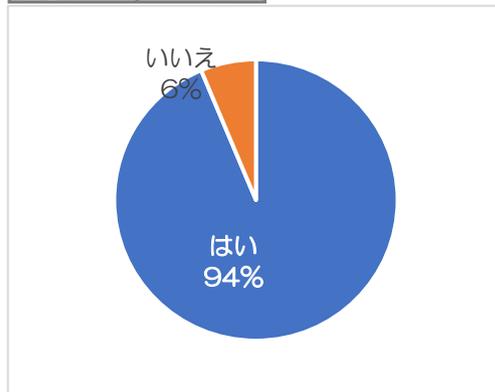
3. このセミナーを受けて、何か実行できそうですか。

回答	回答数
はい	181
いいえ	9
合計	190



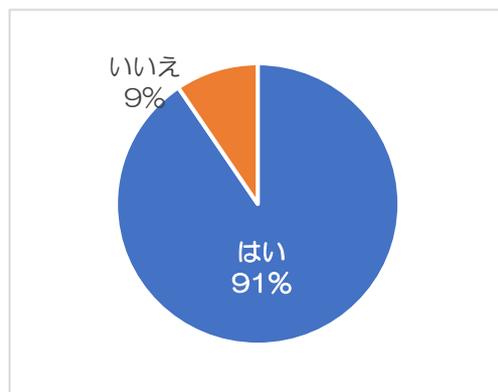
4. このセミナーは、満足できるものでしたか。

回答	回答数
はい	178
いいえ	12
合計	190



5. このセミナーを通じて、自ら実行したいことができましたか。

回答	回答数
はい	172
いいえ	18
合計	190



6. このセミナーで、学びとったことを自由に記述してください。

- ・対面では質問できない学生もチャットなら気軽に質問ができる。といったことに共感をして納得できた。
- ・アプリを使用する場合、スマホでも利用できるものを選択する必要があることを改めて感じた。
- ・micro-bitsを授業に使えるようなアイデアをいただきました。
- ・100均のカードの利用など
- ・課題提示と学生へのフォローについてのお話が参考になりました。
- ・各校における遠隔授業の双方向性確保のための取り組みや、対面授業を遠隔対象者にLiveで発信する取り組みなど、参考にできることが多かったです。
- ・各学校、様々な環境の中で取り組みをされているので今後も情報収集を行いたい。
- ・本校ではPCを持たない学生に、プログラミング教育を遠隔で実施するか悩みました。結果的に学校のPCを郵送し貸し出す対応をしましたが、大変な労力がかかってしまいました。Microsoft makecodeはスマートフォンでもプログラミング可能ということで、可能性を感じました。
- ・対面とオンラインのハイブリッド授業の実施方法について、参考になりました。
- ・コロナウィルス感染症の影響で他校の先生方も色々とお苦労されていることが理解できた。根本的解決方法は難しいかもしれないが、この研修参加をきっかけとして今後も情報共有していきたい。
- ・MakeCodeを当校の学科で活用できるか検討したい。
- ・今回、このセミナーに参加させていただき、オンライン授業に関して、他校での教授法やそのノウハウや成果などを含む報告がされることを期待してセミナー申し込んだが、どちらかといえば、今後のオンライン授業に関するノウハウを参加者間で継続して共有しながら学生の満足度向上を目指す為のコミュニティの場のきっかけ作りが中心で、自分が思っていた内容と違ってはいたが、今後の授業満足度向上を目指す意味ではコミュニティへ参加し、意見交換しながら、自分のオンライン授業の教授法などを向上させたいと思います。
- ・オンライン授業における理解度確認方法
- ・ツールの使用方法、各校の取り組みを学べてよかったです。
- ・ビジュアルコーディングとテキストコーディングの組み合わせが、学生の理解度向上に役立つこと
- ・1. Micorobitを使って、Python言語を教えること 2. オンラインを使った教育方法
- ・他校の現状でのリモート授業の実施状況。リモート授業運営の手法とその課題点。
リモートと対面授業の使い分けの例。
- ・遠隔授業をまだやった事がないので、生徒との実際のコミュニケーションの取り方や気にしないといけないことが把握できて良かったです。
- ・丁度来月から対面+遠隔の同時授業を行う身なのですが、授業の進め方や運営方法、ついてこれない学生へのフォローの仕方など、まさに今欲しい情報を共有いただけました。
今回のセミナーで共有いただいた情報を参考に、来月からの授業に臨みたいと思います。
- ・実習や演習においてもツールなど工夫すれば遠隔授業も可能であると再認識できました。
- ・micro:bitという環境を知ることができ大変ためになりました。また、各先生方の工夫を聞くことができ自身にもフィードバックができることが多かったです。
- ・Moodleの導入について、興味をもち、検討したいと思いました。

- ・パケットトレーサーなどシュミレータとオンライン授業が相性がいいこと
- ・オンライン授業を管理するツールの使いこなすとバックアップについて
- ・遠隔授業における実技系の授業の難しさがある中で、シミュレーションソフトを活用した授業方法を知ることができました。ありがとうございました。
- ・他校さんも、遠隔授業で苦しんでいることを共有できたのはよかったですと思います。教員からすると、CMSやLMSの運用は、授業品質の担保と工数管理が相反する最大のネックですので、この点を検討課題としたいと思います。残念ながら、今回のお話は311の段から実施していたことなので、厳しい点数付けとなっておりますが、内容としましては、素晴らしいものだったと思います。ありがとうございました。
- ・ネットワーク実習のツールを知ることができてよかったです。先生方もご苦労されていて、自分たちだけではないという安心感を感じました。
- ・急なオンライン対応になっているにも関わらず、設備環境の充実さや複数の遠隔授業ツールを使いこなされていたりと、一口に「遠隔授業」と言っても、語弊があるかもしれませんが、余裕のようなものを感じさせていただきました。今回のセミナーを受けて、自分自身でも遠隔授業は「何とかやってみる」から「クオリティーの追求」へと移行しなければならないなと感じました。
- ・具体的なオンラインプログラミング実習の方法
- ・GNS3というシミュレーターについて、オペレーション時の対応について、学ぶことができた。興味深かったのは、打ち合わせにリモートツールを活用していた学校が多かった点。
- ・Microsoft makecodeの存在
- ・今まで補助教材だったものがメイン教材になっていく点、自分も校内で行っていた実習教材を見直し、学生の満足のいくコンテンツを提供していきたいと思いました。
- ・オンラインでのネットワーク構築に関して、シュミレータの存在を知ることができ、大変ためになりました。シュミレータがあれば、対面の授業であっても複数人同時に実施することができますので、今後の授業でも生かせると感じました。
- ・学びとるセミナーというよりも、コミュニケーションの場という印象でした。今後回数を重ねることで、よりブラッシュアップされていくことを期待します。
- ・ネットワーク実習において、PacketTracerが優秀なシュミレータであること。また、Moodleについては管理面の負荷についても検討したうえで活用したほうがよいこと。
- ・どこの学校さんも、同じような悩みを持っていることが良く分かりました
- ・Zoom会議の普及
- ・オンライン授業では対面同様の内容に固執するのではなく、それぞれの学校、学生、地域の環境にあった方法で工夫をし学びを止めないことを強く感じました。また、Zoom上では動画配信が本校が採用しているgoogle meetに比べスムーズで驚きました。今後オンラインで動画を見せる機会があればzoom活用も検討したいと思います。
- ・他校での事例が知れる場はとても貴重で良いと思いました。
- ・フィードバックの大切さ
- ・PacketTracerというシュミレータが非常に有用だと感じました。講義の中では触れられておりませんでしたでしたが、実機の購入が不要になるため、導入コストが低いのが大きなメリットと感じました。
- ・TVpaintアニメーションを使って学生の制作物に直接描き込んでクリティークを行っていたこと。
- ・昨日のセミナーはありがとうございました。オンラインでの授業運用は手探りの状況のため、大変勉強になりました。また、学校同士の繋がりを作る機会は少なく、今回のようなイベントは本当に貴重な時間となりました。ありがとうございました。
- ・オンライン授業の心構えと他校さまのオンラインにおけるメリット、デメリット。
- ・自身の学校独自で対策を考えていたので、たくさんの学校のノウハウみたいなものを知れてよかったです。
- ・他校の状況ややり方を伺って有意義なものでした。参考にさせていただきます。またセミナーの内容ではないですが、オンデマンド形式はいつでも受講することができ、その良さを実感しました。
- ・オンライン授業の長所と短所を再確認できました。
- ・ネットワークシュミレータとスライドを効率良く学生に提供することで、遠隔授業においても演習が可能であることが分かりました。ありがとうございます。
- ・色々模索しながら、各自（各校）で対応しなければならいと学びました。（遠隔授業の模範解答を期待していました。）
- ・プログラミング授業、特に入学直後の1年生にたいしてオンライン環境での授業環境の構築で今回

紹介いただいたツールはハードルを下げられると感じた。オンライン授業の配信ツールもアナログ的に（O×の紙等）使うこともリアルタイム性を上げられると感じた。やはり授業に参加させてこそそのツールだと思いました。

- 各学校の状況がわかり今後さまざまな検討をする際に役立つと思いました。また、実際の実技的なものをどのように取り入れているか非常に興味深く、講師のデジタルスキルの重要性がわかりました。有難うございました。
- 各学校のオンライン授業での試行錯誤、大変興味深かったです。大人数をブレイクアウトセッションで分けての話はHRのコミュニケーションとして行いましたが、授業でのディスカッションとしてそういう使い方もあるのかと思いました。TVペイントの仕様も初めて拝見して、使い方が知れてよかったです。貴重な機会をありがとうございました。
- まずはプログラミング教材としてMicrosoft makecodeのご紹介、ありがとうございました。たいへん興味深く、さっそく授業で使ってみようと思います。遠隔授業においては、様々なツールを用いた出席管理や、チャットなどによる学習指導の事例を参考に、今後のカリキュラムや授業展開を考えていきたいと思います。
- Googleclassroomの使い勝手が非常に良さそうだと感じました。そして、うまくツールを使いこなすことで、リアルタイムに近いスピード感で学生の課題等をチェックできるのではないかとこの可能性を自分の担当科目でも検討したいと感じました。
- ネットワークのシミュレータについて初めて聞きました。手元でテストした上で自分の授業の教材として取り入れるつもりです。
- デッサンについては担当講師が非常に学生とのやりとりについて、指導について苦戦している分野でしたので、複数カメラを使った指導など非常に参考になりました。
- まだまだどの学校も試行錯誤中なのだと感じました。
- デジタルでなくアナログで制作する授業の難しさを感じております。ただ新しいツールを駆使して授業運営をされている先生方のご発言等を参考に自らの授業運営へ置き換えて生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。
- 授業内容を共有する手段として、google スライドはデッサン以外の授業でも使用できると感じました。設備を揃えることは難しいですが、知恵を出し合うなど本校で出来ることは積極的に取り組んでいきたいと思っております。
- どのように学生はオンラインで作品を提出しているのか。→スマホに入れているOffice Lensを使用。
- オンラインになったことで、従来型授業以上の準備が必要になったことが再確認できました。またそれが今後の対面授業においても多角的な対応に繋がっていくとよいなと私共も感じております。
- コロナにより授業数などが減り、学生への教育が行き届いてないが、企業の求める人材は変わらないという状況が懸念される。ということが自分では気づけてない部分でした。
- スマホでも学習することができたので、入学予定者への入学前課題として活用することが可能であると感じました。
- ネットワーク系の科目を担当する際の参考に受講させて頂きました。Ciscoのパケットトレーサーが非常に興味深く、参考になりました。
- 遠隔授業での授業方法
- Microsoft makecodeの活用方法について
- オンライン授業における学生管理の方法等について
- Microsoft makecodeについて知る・学ぶことができた。ゲームクリエイター科の現在のカリキュラムでは利用が難しいが、他科（特に留学生を対象とする学科）では利用機会があると考えられるので、学内で情報共有して、活用していきたい。
- スマートフォンでも使用できる教材という情報が遠隔授業当時はなかった為、第二・第三波にて遠隔授業となる際の検討材料としては良かったと思いました。
- MoodleやPacketTracer以外のシミュレータなどを知ることができた。
- デッサンのオンライン化にあたっては指導講師の専門分野（デッサン）でのスキルと同時にかなりのデジタルスキルが求められ、多くのクラスを何人かの講師で分担して同一内容での授業を実施することは難しいと理解しました。対面型のデッサン授業をオンライン化する発想ではなく、別物としての在り方を考えなければ難しいな、という印象でした。
- 遠隔授業に関する学生管理
- コロナ禍での各校の試行錯誤の様子が垣間見れたこと。日本電子専門学校・工藤先生の200名対応のGoogle Classroomの様子が少し見れましたが、作業量（業務）が大幅に増えているのではないかと心配になります。

- 複数カメラの利用
- 実際に授業でデッサンを指導しているわけではありませんが、他の講座で利用できそうな情報がありました。今後の参考にさせていただきます。
- 研究など各自（チーム）で異なる内容を実施する形態の授業であっても、有効なツールを組み合わせつつ、適切なフォロー・ファシリテートを行うことで、確かな学習効果を生み出せること
- 学校として複数のツールを許容し、ツールを限定することによるリスクに対応されている点など、考え方のステージが一段階上にあると感じ、今後の感染症リスクへの対応を考えると必要なことであると認識させていただきました。また、オンラインとファシリテートは、今後の学校教育や教育スキルの中核になると思っておりますので、その多様なツールを見せていただいて非常に有意義でした。
- 試験的に試したことはありますが、まだ本格的に遠隔授業を行ったことはないもので、多くのことが知れてよかったです。対面授業では双方向性を重視していますので、遠隔授業をやることになった場合は、基本顔出しで行うべきですね。その他〇×カードや投票機能を使うなどいろんなことを教わりました。遠隔授業を始めることになった場合、このセミナーで学んだことを生かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- コロナの影響でどの学校も苦労していることが理解できた。オンライン授業の実施方法は非常に参考となった。
- どの学校さんもオンライン授業に関しては質を通常の授業と同程度までに引き上げるために苦労されていることが分かりました。この点は弊学園も今後の課題と考えています。
- 学校側でのオンライン化に伴う設備や、注意事項、学生への対応方法など非常に興味深く、学ばせていただきました。
- オンライン学習に最適なプログラミング学習ツール。学生のモチベーション把握など、オンライン学習でのメリットとデメリットも把握することができました。
- zoom/webex/Googlemeet/MicrosoftTeamsなどを併用し、あえて1つに絞らないこと。
- Slackなどのコミュニケーションツールと組み合わせることで、学生同士のやり取りが増え、かつ実務でもあり得る場面を作り出せ、体験から学ぶスタイルが確立できること。
- 教員のガイドラインやマニュアルがあると、最低限の操作スキルが担保され、教員による差は減らすことができる(可能性が高まる)こと。
- すべて原則無料で導入可能なこと。
- オンライン実習におけるリアルタイム性の担保のための様々な工夫。ツールの中の機能(投票など)を利用して、声掛けをするというのが現状ではベターかなと学びました。
- オンラインで授業をする場合に実習(演習)課題を多めにし、なるべくPCの前にいさせる時間を増やすとともに出席の確認にするのはなるほどなと思いました。Moodleというマネジメントシステムは初耳でしたが、わが校ではTeamsを使っているので、その機能についてももう少し調べてセミナーで紹介されていたような使い方ができないか確認してみる所存です。
- 授業展開の工夫や学生マネジメントについて
- 本校の1年次科目「ネットワーク基礎」において、目に見えないネットワーク通信を座学で説明してもイメージが湧きにくく、かといって実習環境を毎回準備するのは大変であったので、このたびご紹介いただいたパケットレーサは有用であることがわかりました。今後、使い方や指導法などを研究・検討していきたいと思います。
- micro-bitsを初めて知りました。便利そうで、興味深いです。授業に取り入れることができるかどうかは、検討になります。
- 遠隔会議のみでなく、様々なサービスを活用しての授業展開。オンラインだからこそ可能になる学生指導方法について考えるきっかけとなった。
- いずれやらなければと思っていましたが、やはりYouTubeで動画化してコンテンツを蓄積していくことが今後必須になってくると感じました。それによって学生たちの理解度が向上したという実証結果を知ることができて良かったです。
- 早押し問題など、学生が集中して取り組めるような工夫が聞いて良かったです。
- GoogleフォームのプラグインTimify.meの情報は参考になりました。学生に明日の成長を具体的に見せてあげるといったコメントには感心しました。
- ツールを使いこなす重要性や今後のIT教育で意識しなければいけないことを学べたと感じております。本日はありがとうございました。
- ハイブリット型の授業のメリット
- 本校ではオンライン授業を序盤のみで行っておりませんでした。第3波を想定して事前の情報収集を目的に参加させていただきましたが、使用されているツール等は参考になりました。また、デジタル

教科書や現行のスタイルに関しても見直しするいい機会でした。ありがとうございます。

- いろいろなアプローチでの学習指導方法が聞けてよかった
- 今回は貴重なお話をありがとうございました。micro:bitとmicrosoft makecodeを用いた授業について、視聴後に校内の別の先生にお話ししたり、他の活用事例なども調べてみました。安価で導入できること、入門段階で有用であると同時に、授業コンテンツや指導案などの準備をより入念にしなければとも感じました。moodleの運用についての、オンライン参加者の先生方のやりとりはたいへん勉強になりました。こちらでは、現在moodleは導入していませんが、そのような話が出てきた際に思い出してみたいと思います。
- シミュレーターツールであるシスコパケットトレーサーを用いた授業のお話で、シミュレーターでしかできないこと、シミュレーターを用いた授業が後の対面授業でも生きてくることなど、興味深く視聴させていただきました。講師の田嶋先生による丁寧でわかりやすい説明が印象的でした。貴重なお話をありがとうございました。
- カメラを複数台利用するという視点が、これまでにない発想で新鮮でした。現状本校でも板書内容をいかに鮮明に学生に提供するかは課題でしたので、カメラを複数台設置できればオンライン授業のクオリティは高くなると実感できました。また、帰国中の留学生に対するオンラインを実施している点はとても興味深いものでした。
- 本校では序盤のみオンラインで授業を行っており、夏以降は対面で行ってまいりました為、独学で調べてまいりましたが、本セミナー等の受講で知識やこれからの幅が広がったと思いました。
- オンデマンドで参加しました。遠隔授業で効果があがった部分は動画により振り返りが、学生・教員ともにできることが学んだことです(すなわち、習熟や不明点は個別にあるので自分で調整できる)。また質疑応答時間の他校のソースコードチェック状況などが聞けてよかったです。
- オンライン授業を通じた企業連携や卒業生と繋がりを継続する部分は、特に参考になりました。
- 企業の方や卒業生を交えたチャンネルを用意し、在校生との交流の場をオンライン上で持たせることで、企業にとってもどんな学生がいるかの把握の場にもなりますし、学生はアピールできる、win-winな非常に有益な施策だと思いました。
- 同じ学内ではありますが、Slackや複数のツールを使用した学習管理・学生とのコミュニケーションは初めて聞く内容であり、非常に参考になりました。また、チャットを利用した学生の習熟度把握方法についても大変参考になりました。
- 業界で活躍する卒業生と在校生を繋げる工夫
- 「Kahoot」や「Paiza」「AtCoder」など様々なツールをご紹介いただき、大変参考になりました。暗記系の早押しクイズやAtCoderによる協義プログラミングなど、学生のやる気や達成感など工夫をされている点については、本校でも導入を検討してみたいと思いました。ありがとうございました。
- 遠隔授業を行うにあたり、様々なツールを用いていることが分かりました。
- オンラインによって学生の理解度について差が授業形式よりもシビアであることが改めて理解できてよかった。当校は現在オンライン授業を行っていないが今後に向けての準備の参考になりました。
- 企業参加授業のツールとしてslackを活用されていること
- オンラインのみならず対面授業でも活かせる内容で、たいへん勉強になりました。内池雄先生の授業づくり、創意工夫、強い熱意を感じました。冒頭での授業の「目的」である「楽しさ」については同感です。プログラミングとは本来、楽しいものであると考えています。同時にそれを全員に伝えるむずかしさを日々感じています。実力の有無にかかわらず「楽しさ」をわかっている学生は、与えられた課題だけに満足せず、改善要求など出してきました。実力があがりながら入学以前から不登校気味の学生もいますが、彼はSMSやメールなどで画像など見せて積極的に質問などしてきます。プログラム作成前よりも「使う人の作業や手順を楽にするために」創意工夫します。一方で、「楽しさ」を感じていない学生は、やらされてるからなんとなくやる、先生や誰かがやったのをなぞっておけばいいなど、「自分だけの一時的な楽」のために模範解答ばかり求めたりします。そういう者はIT業界やゲームプログラムの会社に応募しても、当然ながら採用担当者からは見抜かれます。リモート授業では「知識」を教えることも活かしながら、学校（授業）ではインプット、家庭ではアウトプットとのことでした。その手段として、Googleスプレッドシート、kahoot、「Google Form + timity」などのツールや、プログラミング強化のために長期、短期のスケジュールを立てることなども、勉強になりました。paiza.ioについては、私や講師の先生方もほんの少しですが使うことがあります。paizaラーニング学校フリーパスの検討を申し出ていますが、いまのところ学校側の理解は得られていません。「環境設定しない」手段として、自分の場合は、Linux上でjavac、javaなどのコマンドを打たせて、hello worldを表示するようなことをしました。また、paizaなどの問題演習で、先生と一緒に解いてあげる、解く範囲を限定しておくという点も考えさせられました。「YouTube」での授業録画データをを限定公開するお話がありました。これについては、本校でも講師の先生にて本年度より実施していただいております。

もともと、コロナ渦で授業開始が遅れること、入学者の学力差が大きいと想定されること、発達障害（学習障害）と思われる学生が数名いることから、講師の先生に相談して、実施いただいたものです。ただ、その動画をよく視聴しているのは学力のある者ばかりで、視聴してほしい者（学力の比較的低い者）は「見てます」といつつ視聴していません。今回、オンデマンドで視聴しましたが、視聴した内容、画面越しに感じた熱意を、活かしていきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

- 外部サイトの活用、非常に参考になりました。特に早押しクイズは、楽しく授業を受けてくれそうだととても良いと思います。ありがとうございました。
- Googleクラスルームの活用の仕方や課題の添削
- オンラインでのネットワーク実習が可能であることがわかり、たいへん有用なセミナーでした。特にCiscoPacketTracer、Moodleは初めて知り、今後に生かしたいと考えています。
- slackやRedmine、Gitでのバージョン管理など、実際の開発現場で使用しているツールを授業で使うことの重要性を感じました。
- Javaの授業環境や指導について参考にさせて頂きました。クイズ形式でのオンラインテストなど、今後活用させて頂きたいと思いました。
- 当校はオンデマンドの環境がないので、検討することが必要であると実感した。その他、使用したことのないサービスや違った活用方法を知ることができ参考になった。リアル授業と同等のことをオンライン授業に求めるのではなく、オンラインだからできることがあるという観点も大事だと感じました。
- オンラインだからこそコミュニケーションツールが重要であることが知れた。スラックやチャットワークも視野に入れたい。ZOOMでの板書に限界を感じていたため、名前の拳がったツールを検討していきたい。
- Slackやまだ当校で実践していないSNSツール等を使用する契機になりました
- チャットワークなどこれまで利用したことのないツールを知ることができ、その点は学びになりました。
- オンライン授業での課題提出方法に悩んでおりましたので、大変参考になりました。
- いろいろなツールがあることと自分の学校はかなり遅れているということ。また、対象となる学生や科目の難易度によっても適正なツールは変わらなうので、結局は自分でそこを探っていくしかないのだと感じた。自分は情報系がかなり苦手分野であるため、それぞれのツールの使い方自体が分からないため、今回は正直何を話しているのかそもそもの前提の部分が理解できない状態であったため、参考にしようと思ってもできないし、なんの発言もできなかった。（研修中自分の顔を映し出すやり方もわからなかった。）税理士科目を担当しているため、簿記の教え方自体の遠隔の仕方について議論すると思っていたので、半年で3級をやるやり方と税理士の理論の授業では、授業の展開の仕方そのものが違ふし、論点の伝え方も変わるため、そうした意味では参考になる部分はなかった。どちらかというと遠隔授業やクラス運営の仕方のツールの紹介が中心であったため、それなら簿記でなくてもよかったのではと思う。少し思っていた内容とは違っていた。
- オンデマンド方式にはメリットとデメリットがある。メリットを活かすためには・時代の変化によって変わらないような内容に向く・学生が任意のタイミングで繰り返し見ることが出来る・短時間単位（学生の集中が続く、見たい話題をすぐに見つけやすくなる）本校はIT系・マルチメディア系が中心だが、その中でも時代によって変化しない原理的な分野がある。そのような分野は、オンデマンド式としたほうが、長い目で見ると授業準備が節約できる。
- さまざまな学生とのコミュニケーション手段がある。・学生に例えばiPadなど統一された通信手段があるからこそ可能な手段がある。・学校が導入しやすいものを優先するか、学生が馴染んでいるものを優先するか、どちらにもメリットデメリットがある
- Zoomを使用した出欠管理ではなく、Moodleを使用した出欠管理を是非導入してみたいと思いました。また、Chromeのリモートデスクトップも上手く活用することが出来ればと感じました。貴重なお話をありがとうございました。
- 複数カメラを用いた授業で、学生に状況を細かく伝えられる環境が今後もより必要になってくると感じました。
- 学生とのコミュニケーションツールは色々あり、学生目線のツールと教員、学校目線のツールがあること。軽いタッチのコミュニケーションをとるためには学生目線のツールを教員が使いこなし利用することも必要であること。
- オンライン授業においては入念なシナリオ構築が必要である
- 内池先生のお話を拝聴して、ただ単に遠隔で授業をするのではなく、スプレッドシートやkahootといった様々なソフトを活用することで、バリエーション豊かな授業が展開できることがわかり大変参考になりました。いきなり全てを導入するのは難しいですが、出来るところから導入し、学生が

楽しいと感じることができる授業ができるよう工夫していきたいと思います。

- 他校様の状況を知る事が出来、参考になりました。
- 作成したドキュメントに付随する情報を補足して話す理解が深まる
- 利用しているサイトやツール等を紹介して頂き、大変参考になりました。
- 制限なく様々なアプリケーションを併用して進めていく体制が斬新に感じた
- 学生が授業に参加しているかの確認方法やコミュニケーションの取り方は様々な方法があると分かった。実際に試してみたいと思った。
- 遠隔を対面授業に近づけるアイデアが数多くあり、今後の参考になりました。
- 4台のカメラで役割を変えておられたやり方・使用されている無料のソフトウェア等、参考になりました。オンライン授業の中では課題の提出をこまめにさせることで進捗を確認したり、授業計画を綿密に構成する必要がある等、重要視していた点のお話がこのセミナーでもされており、改めてその部分の重要性を認識いたしました。
- 具体的な実践方法を教えていただき、非常に参考になりました。難易度で3ステップに分けた課題、Webexでのグループ分け、課題の未提出者に期限後すぐ連絡をする、学生を寝させない工夫（聞いていないとできない、できないと呼ばれる、キーワードの入力）、など、次回の授業からでも取り入れていきたいと思います。また、映像コンテンツの再利用の効果は、もっと積極的に活用する方法を考えたいと思います。
- リモートで使用していくコンテンツについて他校の取り組みを聞くことができよかったですと思っております。
- オンラインにおいても、受講人数が多いとチャットでも発言しにくくなる学生がいることを知れた。
- 生徒によって進捗の開きが出てくる事について、遅い学生は個別に声掛けをしてサポートをしていかなければならないと感じました。逆に、早い学生の課題の用意や動画の作成など、初年度は講師の時間的負担がかかることが多いため、授業準備は余裕をもって取り掛からないといけないと感じました。
- 他校もやってることは同じということ
- ツールや実習環境を整えるだけではなく、慣れていない学生でもチャットで質問をしやすい雰囲気を作るなど、講師側の工夫を聞くことができ参考になりました。また、対面授業以上に様々なツールを活用して学生の状況を把握する必要があるとあらためて感じました。
- Notionの存在をはじめて知りました。
- オンライン授業が苦手・楽に行きたいという声が現場から上がり、研修を行うなど苦労していたため、様々なツールを使用した授業運営をご紹介頂きうらやましさとチャレンジ続けようという気持ちになりました。ありがとうございました。
- Notionについて、非常に興味深く検討したいです。
- 会議内でもお話ししましたが、本校もこれから本格的にオンラインの導入となりそうなので、非常に参考になりました。
- Kahootというアプリを使って遠隔授業における学生の参加を把握する
- Notionアプリに興味を持ちました。アプリをいかに工夫して良い授業にするかが重要です。
- まず、Notionというアプリケーションは初見でしたので、とても参考になりました。そして、これまでセミナーを受けてきて、ITやゲーム系の学科は遠隔授業に使用できそうなツールに詳しい傾向があり、いくつかのツールを組み合わせると相乗効果を生み出しているように感じました。また、今後の社会人に求められるスキルの一つとして遠隔ツールの使い方が出てくる可能性があること、遠隔授業を行うことによる教育実績のデータでの蓄積など、これまで気づけなかった視点が多く勉強になりました。
- 機材・デバイスの整備に課題を感じていましたので今後に向けた方針を考えることができました
- とてもシンプルなmicro:bitを利用して容易に達成感を出したことで、学生のモチベーションを維持していき、自学自習の環境としてMakeCodeを利用できたことも大きいだろう。教材としての採用ができなくとも、1用のコンテンツとして学生に紹介したい。
- Packet Tracerは利用しやすいソフトウェアだと感じた。Moodleによる出席管理の手間が増える中、簡単できるものを使うことが学生・教員ともに混乱が少なく進められた一因なのかもしれない。また、筆記試験Moodle上の実施方法も参考になった。
- ありがとうございました。コロナ禍における対応など非常に参考になりました。
- 連絡ツールでの対応は、やはりルールを決めて取り組む必要があると感じた
- 録画教材を利用した授業についての参考になりました
- AI教育にも生かせそうなマイコンボードの知識と学生の意欲向上の手立て
- 会議ツールの利用方法、学生の個別対応の方法
- 教育へかける思いの強さを感じました。オンラインであっても学びの質は変えないために、様々な工夫をこ

いることが何よりの学びになりました。

- 今までteamsでと考えてみましたら色々なソフトや電子掲示板など試し、次に遠隔授業になったときはよいものを生徒に提供できる準備をしていこうと思いました。
- 立場や担当、経費などの学校側（担当側）の準備と生徒・学生のスキルの向上やご家庭での準備や理解など、最終的に学校を卒業するにあたり、魅力をどのように伝えるかと誰もが模索していることがわかりました。多くの方の意見を通じて常に、ソフト面とハード面の理解や技術向上など、学校へ登校しても、リモートであっても変わらない教育を提供していき、今後の展望を描いていきたい。
- Obnizの可用性
- 学生宅のボードと学校でのテレメトリ／リモート操作の手法
- オンライン授業についての各校の考察
- 言葉で表せない、参加された先生方の思いが伝わりました。校内の見地から、視野の広いお話が聞けて参考になりました。本当に有難うございました。
- 投稿フォーラムを利用した学習について今後実践していきたいと思っています。
- 見学者を参加者にするというのが刺さりました。問いかけや自分を含めたクラスメートの発言が記録として残ることで復習する際のフックになるとうのも参考にさせて頂こうと思います。ありがとうございました。
- 前回と異なり、実務を担当されている先生の講義でしたので、意味深いものだったと思います。
- 他の学校のオンライン授業の様子が分かった。IoTといっても教えていることがマイコン（arduino）よりもRaspberry Piのほうが中心だということが分かった。学生のモチベーションというか興味が一番大事だということを確認した。
- オンライン授業における学習履歴データの蓄積は、様々な学校で重視しているところであり、アフターコロナでも学校の教育資産の形成という観点から重視するべきであると感じました。また、新型コロナの感染拡大に起因するだけでなく、マイクロラーニングの潮流について、改めて感じさせられました。そして、何よりオンライン授業におけるピアラーニングの導入について多くのヒントをいただきました。
- オンラインでもプログラミングを楽しんでもらうという視点は、授業に対する切り口としてとても参考になりました。そのために、いろいろなアプリケーションを組み合わせる工夫されている点が印象的でした。また、学生の習熟度の確認方法など、様々な引き出しを紹介していただき、とても参考になりました。
- リモート社会という新しい環境で、専門学校での在り方を再構築されていることに共感を覚えました。
- ハイブリッド授業というスタイル
- 学生数、授業コマ数など授業環境の違い。学校側の意識の違い。
- オンライン授業の構成や学生の出席確認の方法を考え直すヒントを頂きました。
- 授業アプローチとしてOBS Studioを活用してのメリットについて
- AP対策等でオンライン授業の効果が上がっているという事実を知れて良かった
- いくつかのセミナーを受講させて頂きましたが、ツールが多くあり、オンライン授業を行う上での選択肢が増えたことが良かった
- オンライン授業におけるマニュアルが構築されていると感じた。APIやLMSの兼ね合いが本校では知識不足なところもあると感じた。
- Slack内にて、学生・教員だけでなく、企業の方や卒業生と交流が図れるという点が大変興味深かったです。いきなりは難しいかもしれませんが、本校でも同様の仕組みを導入してみたいと思います。
- 是非kahootを授業で導入してみたいと思いました。
- オンラインによる効果（従来なかった要素）、授業の工夫など参考になりました
- 「対面授業の場で、他者を見て学び方を知った」という学生の意見をお聞きし、オンラインであっても学生同士の学び合いが必須であると実感しました。
- 学習データを解析してみると良い効果が得られそうだったと思った。
- IoTは未経験の分野であるので、obnizから始めてみたいと思います。
- 本校もMoodleを導入しているが、十分に機能を使いこなしておらず、特にフォーラムによるディスカッション等を今後の授業計画に入れていきたい。
- 遠隔授業のデメリットとして、授業内容はわかっていても自分で学習するときの「学習方法」がわからない学生がいるという点は印象深かったです。確かに、分野によっては、高校までの学習方法から脱却したほうがよい分野もあるように思われるため、周囲の学生がどのように学習しているかわからないというのは、学習効果を発揮している学生の学びを真似できないという大きなハンデになっているように感じ、そこへのフォローが必要であるように思いました。逆に、学生同士が教えあうコミュニティを会議システムを通して構築できているというのも印象深く、その段階まで学生の学習意欲を昇華

- できるかは、遠隔授業が成功するかどうかの1つのメルクマールになるのではないかと感じました。
- オンライン授業における悩みが、自分だけではなく、なにかホッとしました。学生が真面目に聞いてくれているのかなど。学生に伝える項目の整理から「Office レンズ」の使用などととても参考になりました。ありがとうございました。
 - 各学校でのリモート授業で工夫している内容を知ることができた。今後のリモート授業に取り入れていきたい
 - 遠隔で受講する学生に対する理解度の把握とフォローアップについて。対面授業で声掛けをして信頼関係を築くことが必要であること。他校の先生方も様々なツールを使い工夫して授業をされていることがわかりました。
 - 対面、同期型、非同期型のメリットとデメリット、それらの組み合わせによる教育効果の向上の可能性について考えることができた。また受講者を見学者から参加者に変えるための工夫を盛り込んだ事例が参考になった。
 - 対面授業にLMSを活用した非同期遠隔授業の手法を組み合わせることで、学生の授業への主体的参加を促せるのではないかと考えました。
 - 遠隔での実習は難しいと考えられる分野で様々な工夫をされているなと思い、とても勉強になりました。特に、「obniz」というマイコンの選定もさることながら、学生のWi-Fi環境によっては、学生宅のPCから学内PCへアクセスさせたり、Windows10の「クイックアシスト」で学生PCに入り込むなど、とても勉強になることが多かったです。
 - 高木先生が仰られていた「ツールや機能を使いこなすことが対策ではない」、「普段からの学生とのコミュニケーションをとっておくこと」、「この状況をチャンスだと捉えること」などは、私個人としてはとても共感できる場所がありました。遠隔授業ということになると、どうしてもツールの使い方などに身構える教員もおりますが、まずは対面時でも当たり前に行っていることをベースに考えることの大切さを改めて認識できました。
 - 今回のセミナーを視聴させていただき、自分自身のスキルを向上しなければならないと感じました。それは、簿記の教え方はもとより、オンライン授業で使用するソフトの操作方法等です。幸い、本校ではofficeのライセンスを学生・教職員に付与されているため、teamsやforms等が利用できますが、自分自身、操作方法等がまだ追いついていないので、その点もクリアにしていきながら、オンライン授業の際は今回のセミナーを参考に展開していきたいと思いました。
 - Notionは様々な使い方が出来ると感じましたので、本校でもどのような場面で活用できるかを検討し、是非導入したいと思えます。貴重なお話をありがとうございました。
 - リモート授業のデメリットとして、学生の顔が見えないだけでなく、PowerPointなどを共有すると、学生から教員の顔が見えないため、授業の臨場感を味わいにくい点があるかと思いますが、OBS Studioはその解決策の1つであると感じました。本校にも映像系の学科があるため、OBS Studioの利用について検討の余地があると感じました。
 - Mathcha、On Top Replicaともに、工学系の授業だけではなく、様々な授業に利用できそうだととても魅力的でした。特に、就職対策の一般常識系統の科目で活躍できそうなイメージが湧きました。また、遠隔授業によりFormsなどを利用して蓄積された学生の学習データを次年度以降にどう活かしていけるかが、今年度コロナ禍で蓄積された最大の財産であるという点は私も感じているところであり、今年度の経験・蓄積をどう次年度以降に活かしていくことができるか、次年度の大きな課題となると感じました。

7. 今後のセミナー・講座等に要望があればお書きください。

- ありがとうございました。「仲間を作る」趣旨は大切な事だと思います。ただ1時間の中の半分程度が自己紹介となってしまうのは、もう少し、ほかの方の実施している方法などをお聞きできればうれしかったです。講師の方の発表が10分程度だったので、何名かお話しただいてもよいと思いました。私を含め、どのように他の方々が実施しているのかがとても気になっているようでしたので、参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- もし、可能であればZoomのブレイクアウト機能を使い、4~5名のグループで討議など出来ればもっと意見交換できると思います。
- オンデマンドで受講ができる点が、大変助かります。
- LMSの有効活用方法
- 色々な学校のオンライン授業のノウハウ集や成果ならびに実施した際の学生からのアンケート集計についての講座設定を希望します。
理由として、それらをもとに自分なりにカスタマイズできればと思っています。
- 引き続きよろしく願いいたします。

- 他校がリモート授業の際に利用しているツールや手法、課題点に対する解決方法など、具体的な成功事例をたくさん紹介いただきありがとうございました。
- オンライン環境で活用できる学習ツール、学生とのコミュニケーションに使えるツール等の紹介を頂けると幸いです。
- 1回、2回のような感じで進めていただけるとありがたいです。本日はありがとうございました。
- LMS向けのコンテンツ作成では、各校悩みも多いと思います。コンテンツそのものの作成や採点方法など、運用面の情報交換も有意義ではないか？と思います。
- AIやIoTなど、先端技術に関わる、基本的な教育手法に関するセミナーを希望します。
- 撮影など実際に機材や人が集まらなければいけない授業などの事例も知りたいです。
- オンラインに関わらず、各専門学校の授業や取組などを共有し、お互いが高めあえる場になればいいと思います。
- 講義と質疑応答で1時間だと少々短いのかと感じました。
- マンガ（アナログ）制作におけるオンライン授業への展開事例
- コロナ禍での「プログラミング実習」の遠隔授業の成功事例（Bestな方法の提示）など具体的に紹介していただけると期待していました。しかし、セミナー内容は、遠隔授業を現状模索中であり、その中での「一例の紹介」であったことと、「情報共有をしましょう」を投げかけるセミナーであったと感じました。
- マンガの授業をどのようにオンラインで取り入れているかを知りたいです。また声優や演劇系の実際に体を使う内容をどのようにオンライン化できるかも興味があります。
- オンライン授業、セミナーの講師側の環境や機材、映像や音響、照明等のテクニックについて共有できるとありがたいと思います。
- アナログ系の表現とオンラインについて
- オンデマンド型の教材開発
- 今回のプログラミング実習セミナーについての意見となりますが、実際の授業風景の一部を動画で公開していただけると、より参考になるのかなと思いました。
- グループワークのある授業の実践例をご講義いただくと嬉しいです。
- 刺激になり意欲が出ました。もっと受講してみたいです。
- オンラインと対面のハイブリッド授業の問題
- 写真の技術指導をオンラインで行っている学校さんがあれば、聞いてみたいと思います。
- LMSの有効活用方法
- オンライン授業で成果が出る、学生の満足度が向上する具体的なノウハウを知りたいです。
- 初歩的な事ですが、実技のオンライン化に伴う設備の種類や使い方、学生へのオンライン授業のモラル指導方法など。
- 出来れば、実際にオンライン授業している風景等が見れると良いです（模擬授業等でも）
- オンライン授業全般にわたる意見交換の場
- まだまだ勉強不足な為、他校様がどのようなツールをどのように使っているか（恥ずかしながらG-Suiteは導入していますが、使い方を十分に理解できておりません・・・）、使い方の講座があると非常にありがたいです。
- 本校も留学生が多いこともあり、帰国中の留学生に授業を配信しているような学校の事例があれば、手法も含めて伺ってみたいとは思いました。
- 講義や実習以外の、就職指導等の実践的な活動があれば紹介していただきたい
- オンラインでのグループワーク手法について興味があります。例えば30人クラスで、5人×6グループでバズセッションし、その後発表など…。いまのところ通常に登校できている状態なので急務ではないのですが、今後にもまた遠隔授業中心になったとき、グループワーク系カリキュラムをどのように行うか、コストのかからない方法を考えるヒントが欲しいです。
- 実際の授業を見てみたい。
- 具体的な授業の中身を知りたいです。
- ビデオ受講でしたので、画質があまりスライドの文字が読み難かったです。スライドなどの資料など提供していただけますか？
- IT、ゲーム、ビジネスなど、分野ごとの分科会みたいなのがあっても面白いかなと思いつきで感じました。
- マイコンボードの科目と授業は今後とも、熟成させ発展させていきたいので、実機教材を使った講座を希望したいと思いました。
- LMSにおける、効果測定手法について、特に相対評価の方法と活用方法について

- オンライン授業についての話も興味深く大変参考にはなるのですが、タイトルに示したものについてももう少し時間を割いて、たとえばどのようなカリキュラムで授業を進めていくかといった内容があったらもっとよかったです。
- 1校のみのやり方だったので、複数校のやり方で違いを見ながらのセミナーだと違った視点で確認出来そう。
- 学生を飽きさせないオンライン授業の作り方
- どの学校様でもZOOMのAPI連携等を行なっている事で、私含め本学園自体がまだそういった知識が疎いです。そういった部分でなにか情報共有が出来るもしくは知識を習得できる機会があれば良いと感じました。
- 遠隔授業下における学生のメンタルケアのような講座があれば受講してみたいと考えます。